

## 論文要旨等報告書

氏 名 矢竹 秀稔

授与した学位 博士

専門分野の名称 博士(保健学)

学位授与番号 甲第 4304 号

学位授与の日付 平成 23 年 3 月 25 日

学位授与の要件 保健学研究科 保健学専攻  
(学位規則第 5 条第 1 項該当)

学位論文題目 Improved detection of gastric cancer during screening by additional radiographs as judged necessary by the radiographer  
(技師の判断で行われる追加撮影による胃がん検診がん検出力の向上)

論文審査委員 上者 郁夫、加藤 博和、澁谷 光一

## 学位論文内容の要旨

胃がん検診において技師の判断によって行われる追加撮影は、基準撮影だけでは検出困難ながんを検出可能とする可能性がある。今回、追加撮影ががんの検出力を高めるかどうかを検討した。対象者は 2004 年から 2008 年までに一か所の検診センターの 17 名の技師が撮影した間接撮影胃がん検診受診者 137 744 名中、調査可能であったがん症例 144 例である。この検診の撮影中にがんを疑う異常所見が透視像で観察された場合は、異常所見をより詳しく描出させるために技師の判断で追加撮影を行った。放射線科医 2 名による X 線写真の二重盲検法の再読影によって、まず基準の撮影方法の X 線写真のみでがん検出数を調べ、次に基準の撮影に追加撮影を加えた X 線写真でがん検出数を調べて、差の有無を評価した。基準の撮影だけでのがん検出数（検出有 120 例、検出無 24 例）に比べ、基準の撮影と追加撮影でのがん検出(検出有 137 例、検出無 7 例)は有意な増加が認められた (17 cases,  $P < 0.001$ , McNemar test)。以上より、技師の判断によって行われる追加撮影は、胃がん検診におけるがんの検出力を高めることが明らかになった。

## 論文審査の結果の要旨

論文審査要旨: 本論文は診療放射線技師が胃の集団検診の撮影の際に通常の撮影に加えて、独自の判断で追加した写真が胃がん検出力の向上に寄与することを多数の症例で検討した研究で、この領域における貢献は大きく、本学保健学研究科の博士学位論文として相応しい内容と認める。